THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年七月二十五日 定價金四錢

女學雜誌

第三十一號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

目錄

●〔官報〕●〔女學叢誌〕婦人の敎育●〔中外新報〕十四件●〔學藝一斑〕理學一斑○カリー氏幼兒敎育學●〔列女傳〕仙吉夫婦の傳〔前號の續〕○樂羊子の妻●〔雜記〕洋服裁方の原理○英國演劇の批評●〔新作物語〕巢守の妻〔春のや主人〕●〔家政要報〕僕婢の職分外三件●〔御伽草〕曆になり給へ○一昨日○數學問題及び答式●〔寄書〕婚姻弊害論○寄問二件

◎官報

明治十九年七月七日

○文部省訓令第七號〔前號の續き〕

〔博物〕博物通解、矢田部良吉譯○普通植物學、丹波敬三、高橋秀松、柴田承桂同譯○金石學、和田維四郎譯○金石一覽圖、和田維四郎譯○動物通解、岩川友太郎、佐々木忠二郎編○中學動物學、宮原直堯纂譯○弗氏生理書、坪井爲春譯○人身生理書松山誠二纂譯○博物解明圖ジョンストン○植物解明圖、ヘンスロー

〔物理化學〕士都華氏物理學、川本清一譯○〔改正〕物理全誌、宇田川準一譯○物理學、飯盛挺造纂譯丹波敬三柴田承桂校補○羅斯珂氏化學、茂木春太譯○密氏化學書〔刊行中〕蘆葉六郎譯磯野徳三郎閲○化學敎授法、秋山政徳譯久原躬弦訂○新式化學、太田雄寧譯纂○中學化學書、磯野徳三郎編述○無機化學丹波敬三纂譯

〔農業手工〕農理學初步、久原躬弦譯○植物生育論、髙山甚太郎磯野徳三郎譯○農用家畜論、大内健今井秀之助譯○シェレー氏工場用具論〔刊行中〕山田要吉譯○勸業理財學、高橋是清譯

〔家事〕〔婦女必讀〕家事要訓、前田寅七郎編述○〔小學〕家事經濟訓蒙、日下部三之助編纂○家事經濟論、篠田久道編述○普通裁縫敎授書、渡邊辰五郎編輯○裁縫指掌、近藤壽和編述○裁縫敎授書、朴澤三代治編輯

〔習字圖畫〕小學習畫帖、文部省編輯局編○用器畫法并圖式、平瀨作五郎纂譯○小學幾何畫法、山田昌邦

〔音樂〕小學唱歌集、文部省音樂取調掛編○唱歌掛圖、文部省音樂取調掛編○音樂問答、瀧村小太郎譯○樂典、神津元譯○音樂指南、内田彌一譯○音樂捷徑、内田彌一譯

〔體操〕体操法、文部省体操傳習所編○〔新選〕体操書、文部省体操傳習所編○体操敎範、陸軍省編○歩兵操典、陸軍省編○〔普通体操〕隊列運動法、松石安治編述○射的敎程、陸軍省編○野外演習軌典、陸軍省編　（完）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

婦人の教育 一

世の人常に彼は婦人なり共に事を談ずるに足らずといひて婦人をば殆んど小兒と同様に見做し到底婦人は男子の相談敵手とならざるものゝ如く思ふは甚だ道理なき事なり斯くては世渡の上に於て婦人は無用の長物となり男子もまた不便多かるべし然れども能々これを考ふるときはその謂れなきにあらざるなり男子と婦人とを較ぶるときは婦人の腦力身体ともに柔弱にして男子に及ばざること万々なり兎ても男子と共に大事に堪ふること能はず余輩實際の有様に於て男子の相談敵手たらざるの實あるを承知せりその何故に然るかは甚だ怪むべき事柄にて一向に合點の行かざるところなり如何に女子なればとて男子の爲し得べきほどの事をなし得ざるべしといふ道理はなくまた男子なればとて女子に優りて何事もよく爲し得べしといふ理窟もなかるべし即ち女子たりとて天性男子に劣りて生れたるものにはあらざるべしされば何故に男子と女子との間に於て斯くまでに劣り優りの相違あるやその原因なくんばあらざるなり今一通りこれを考ふるに固よりその原因種々あるべしといへども要するに從來の教育より生じたるの結果に外ならずと思ふなり從來女子を教育するを見るに心體ともに可成柔弱に成長せんことを勉めこれを女らしき女といひて道を行くにも疾歩すること能はず人と應接して立派に口をきくこと能はず寒氣にも感じ易く暑氣にも冒され易く少しの心配にも直に胸痛を起し僅の感動も即ち癪となるが如き有様にて常住病人たるを免れず取りも直さず世の中の役に立たざらんことを目的として教育することにて良家の娘大家の細君にして世によく教養の行届きたりといへるゝものほど益々かゝる風情なりされバこそ男子に及ばざること萬々なるは敢て怪しむべきにあらずして男子の共に事を談ずるに足らずとするもまたその謂れなきにしもあらざるなれされバ斯る有様に陥りたるは婦人の天性にはあらず人力を以て造りなしたるの結果にしてこの有様にては文明世界には不向なり不便なり否や不道理なりと氣の附きたる時はまた人力を以て之を改良すること左までむつかしき事にはあらざるべし是れ即ち婦人の教育を改良するといふことにてまづその本位標準とするところを定めざるべからず所謂女らしきとか男らしきかといふも如何なるを以て女らしきとし如何なるを以て男らしきとするか

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

あるひはまた教育の上においては更に男女の區別なしとするかを定めて以て今より婦人を教育するの目的となさゞるべからず乞ふ號を逐ふてこれを論ぜん

◎中外新報

◎北白川宮　二品北白川宮御婚儀のことハ前號にも記し奉りたるが去る十二日にハ御息所と御同伴にて參内あらせ内廷に於て聖上皇后宮に御對面御前に於て酒饌幷に茶菓を賜はり了て賢所に御參拜在らせたるのち青山御所に御參向御内儀に於て皇太后宮へ御對面御前に於て酒饌茶菓幷に御息所へ紅白縮緬二匹を賜ハりて御退出後明宮にも御對面あらせたるやに承はる

◎上下の愛情　上に立せて下なるものを慈愛を給ふ御こゝろのおはするからまれ爭でか下たるものゝ上を敬愛せざるべき六月五日發兌の女皇新聞を見るに英國女皇のさきつ頃リヴアープール港に行幸かせたるのち同港の南町に住へるアレンといへる婦人より繻子の涼傘とレースの邊帯とを獻りたりしがそのレースハ同[illegible]住みて「貧なれども忠義なりと」綽號せる愛蘭士の婦人の製しれる由にて女皇も殊にめでさせて奉献を嘉納し給ひヘンリー、ホンソンビー卿を以てアレン婦人を賞し且つ密刻したる美畫の尊影を賜らせたりまた本年の天長節にクリユーのコニー、スピークマンといへる娘が總代となりて外四人の乙女子等と共に左の電報を奉りたり

クリユーにて五人の娘等謹で陛下の御誕辰を祝し奉る

女皇はこの電信を受させたるや否直ちにまた左の電報を賜はらせたり

女皇ハコニー、スピークマン孃およびその友達たる外四人の心切なる祝詞を謝す

とありたり上下親睦の情況掬すべし

◎婦人慈善會　井上松方兩伯爵夫人を始めまゐらせ貴婦人方十數名ハ去る十日午後二時ごろより伊藤伯の官邸に集會ありて第三回婦人慈善會のことに就き御相談ありたる由なるが同會の開かるゝは多分九月下旬ごろならんと聞く

◎外國の皇室費　英國皇室費の定額は國用資金の千分の一なれども魯國の皇帝ハ御一人にてこの八倍を得給ひまたモンテネグロにてハ幼稚に渡らせらるゝ皇族にても有資金の百分の七に當る金額を得給ふといへは歐洲諸國の中英國の皇族ハ最も小額を得給へり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○婦人の植物學生　倫敦製藥學會にては二十歳以下の婦人にして植物學に秀でたるものには二個の褒賞を與へんとて六月十六日と十八日に口答と筆荅兩樣の試驗を行へり

○遺孤の教養　クリチナの后妃は近頃暴風のために死没したるものゝ遺孤を養育し教育上一切のことを擔任すべしとの旨を達せられたる由(右二件六月發兌英國婦人重寶雜誌)

○束髪　世の改進家の女風改良に熱心なるがゆゑにや或は此炎天に際し古風の野蠻髷にては如何にも堪へられざるが故にや近頃追々束髪の行はるゝと見えてカモジその他束髪用品を商ふ店にては日々購求者增殖し府下のみならず地方よりの注文も少なからずといふ

○絶世の美女と醜男　葡萄牙國太子の妃とならせたるオルレアンズのアメリヤの宮と申す御方は世にも稀れなる美人にて在はすることは人のよく知るところなるが今御容貌のあらましを記るさんに御顔の容は恰も卵のごとくにして人に勝れて多く在はする緒色の髮の毛を常にエンサイセといへる風に装束はせ御眼の色も眉ともに褐色にて御手と耳とは殊に小さく御口元いと可愛らしくて微し笑ませたるときは得もいはれぬ御有樣なり一たび知りまゐらせたる人はみなこの御方は温良にして少しも偏愛し給ふところなく慈善深き御性質なりといはざるものなく常に讀書を好み給ひ書を能くし給ふよし何一つとして足らはせられぬことなく今年二十歳にならせ給へどもいまだ九時より早く御寢殿に入り給ふことなく御服もパリの大なる仕立屋より召させたる事なくて常に普通の羅背板の服を召し夕刻は白の綿紗を着し給ひまた能辯に在し會話に長じ給へりといふ然るにこの御方の婿君にて渡らする太子の宮は歐洲第一等の醜男子なりと六月發兌の英國婦人重寶雜誌に見えたり

○演劇の改良　近ごろは演劇改良の必用を唱ふるもの往々顯はれ余輩も前號に於て聊かそのことを述べたるが世上同感の人も少なからずと見えて時事新報の報ずるところに據れば某紳士および俳優中その人ありと知られたる市川團洲等は既に改良實施の計畫中なりといへりその初めより完全ならんことは死ても望むべからずといへども已にかく着眼したるからにも漸次改良の運びに至るべし余輩の聞くところにては俳優中團十郎のごときは有爲の人物なりといふ果して然らば序のことに一兩年の日子を割きて望みを屬すべき作者をも伴ひ歐米の演劇を一觀し來りたらんには其道に益あるところ少なか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

らざるべしと思ふなり

○エグハムの女學校　英國エグハムといへるところに建設せし女子高等教育學校は故ホローウエイ氏の恩賜にして來る七月廿六日には女皇陛下が望ませて親らその開校式を行はせらる〻由この學校の建築費は五十万ポンド（凡そ二百五十万圓許り）に少し足らざりしと女皇新聞に見えたりいかで我が邦に於てかゝる廣大なる女學校の建設を望まんや記者はたゞ衛生上に害さへなくば假令ひ板葺き茅屋根にても女子に適當ある教育の普及せんことをこそ望め

○婦人の財産　すべて世の中は何事をなせばとて先だつものはたゞ金なり金なくては目あるも見ること能はず足あるも歩むこと能はざるべしされば從來男尊女卑の弊風を改めて男女同等の地位にたゝんとするには婦人にして財産を所有するの心懸けなかるべからず歐米の婦人が巨額の財産を所有することは餘りに珍奇とするに足らざれどもこのごろ歐洲より達したる報に據れば近ごろ死沒れるアン、マリヤ、ヘヤンクラーシといへる婦人の遺産は動産にて二万七千ポンド餘り即はち我が十三万五千圓餘にしてその遺言書に由り各種の貧病院へ各二千五百圓づゝを寄附し殘額を親屬一同へ分與せりまたファニー、ホワードといへる婦人の遺産は二万四千ポンド即ち拾二万圓ありてその遺言書には死後その全額を夫に預け夫死したる後は子に預けその後子々孫々に至るまでかくの如くなさべしとありてチト奇妙なる遺言ありまた近頃達したる倫敦繪入新聞の報ずるところに據ればスタンモル家のエリサベス、ランキヤストル令孃は今年三月十九日に死沒さるがその遺言書に由り取調べたるに令孃の所有せし動産も拾万ポンド即ち五十万圓を超過たり三月十二日附の遺言書に猶太人中耶蘇教擴張會。アフリカ及び東洋派遣宣教師會。殖民地及び大陸弘教會。新教改良會。兵隊の婦女救護會。水夫の遺女救護會。教員救助會。貧僧救助會。チエルテンハム公立病院。及び施藥院。サマリタン施藥院。婦人遺孤救護院。男子遺孤救護院。デレンシー病院の赤熱病部。同院の天然痘部。盲者技藝學校等へ各千二百五十圓づゝを寄附しまたる親屬へ十万圓を分與しその殘額およ び不動産とを合て兄弟甥姪の處分に任そべしとありまたアンヒーレーといへる婦人の遺産も拾三万五千圓ありて兄弟親屬は素より召使ひの僕婢にいたるまでに分與せりとありたり組衣一枚の遺物分に親屬の不和を生ずるがごときはいと恥かしきことなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○米國大統領の婚儀　大統領クレヴランド氏とフォルソム孃との婚儀は去る水曜日の(六月二日歟)夕七時にワシントンなる大統領の官邸に於て行はれその式に會せるもの甚だ小數にて僅かに二十八人なりしといふ新婦新郎は來會の人々と共に婚姻の晩餐をなしたるのち婚後の旅行として直ちにマリー蘭土アレガニー山のデーア公園に向て出發せりこの日英國女皇より「君の新婚を賀する我が信實を受けられんことを乞ひ併せて君の幸福を祈る、ヴィクトリヤ」との電信を贈らせたりと六月十二日のグヰーン新聞に見えたり

○茶話會　内外貴婦人の催ほさるゝ茶話會は盛暑なるに付暫く休會して來る九月三十日に開かるゝ筈なりと聞く

○正誤　前號に英國外務大臣の夜會と題しグランヴィル伯を外務大臣とせしは殖民地事務大臣の誤なり

學藝一斑

○理學一斑

〔第九節〕自然の定則　能く意を留めて度々の徵驗をなすときは毎にある事はある結果の原因にして或る事柄の起るには何時も一定の順序に從ふものたることを發見すべしこれ「自然の定則」を發見したるにて何物にても重きものは地に落ると確定り居るがごときは即ち自然の定則なり鉛は軟かにして重く石は重くして堅しと定り居るは皆自然の定則なり何となれば經驗に由てこの然るを知らるゝが故なり

斯のごとく自然天然の事物の力および性質に就き吾人の知り得るところのものは總てこれを自然の定則といふを得べきなり然れども自然の秩序より生ずるもののみにあらずしてその秩序より吾人の造り出したる事を定むるところの道なりと心得べきことなり自然の定則とは恰も人々の行爲を支配するために設けたる法律と異なるところなし税金を上納するの法律あり盜みをなし人を殺ささるものを罰するの法律ありされどもこの諸法律は税金を拂はしむるところの原因にもあらず物を盜み人を殺すことを禁ずるの原因にもあらずして只人の税金を拂はず物を盜み人を殺したるときは斯くすべしといふ定めに過ぎざるなり左れば税金を拂はさめ惡行を禁ずるの原因は懲罰を恐るゝ事にてこの定めを信ずるの結果なり故に人爲の法律は社會に於ては斯くあるべしとの定めにして自然の定則は自然の事物は斯る事情の下にありといふ定めなりともに吾人の良知に訴ふるところのものなり(以下次號)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○カリー氏幼兒敎育學

〔第十五節〕前節に述べさる幼兒幸福の利益　小兒は恰も花の莟みのときと同じとすかゝるときに當り前節に述べたるごとく種々の幸福の澤山あるはよく自然に整ひ居ることにてこゝろの幸福より生ずる温良なることは心學および德育の上に必用なるは素よりのことなれども體育の上に於ても同じく必要なることなり一方において絶えず刺戟するおとあるときハ心經系統を激動し不良ぬ性質を萌ざしまた一方にありて己にこゝろの裏にかゝる強き感動をれこしたるときハ道德の熟練をなすために必要なる愛情の原理れよび時機を得て德性を長せしむるところの篤實ある感覺を養生するの場所なかるべくこゝろの經驗を積むことに關し遂にかゝる事情に至るべしとせばその價は只道德不完全の媒たるに過ぎざるべし然るに決して左ることとは萬々なきものなり（以下次號）

◎列女傳

○越後仙吉夫婦の傳（前號の續）

[illegible]お常ハなれぬ長旅に少しも物憂きけしきも見せず本夫を慰めれ由を労り甲斐〳〵しく附随ひて板橋の宿の盡頭なかるあやしの矮屋に宿をとりぬ此夜仙吉ハお常に對ひていとうれはしげに語るやう辛うじて先江戸まで來つきたれど如何なる便宜によりて身を立つべきか夫さへ覺束なきに幼き者を連れわりかむハ便なきと多かるべし人に雇ハるゝハ更にも言ず心の限り倶稼ぎせむにも此羈絆こそいと心苦しけれ西行法師が出家を思ひ立れし時四歳になる娘を縁より蹴落して恩愛の情を斷れしハ佛法護持の念をかためられしなるべし我々が今身を立て家を興さむと思ふにも恩愛の情を斷ずハ後悔しきこともこそあらめ心ハ闇にあらねども子を思ふ道に迷ひもせば大事を過誤るとなしとしもいひ難しされば何處にもあれさるべき人ありて貰ハむと言バ養ハせむと思ひ定めたるを如何とか思ふと問ひはかれバお常も霎時うち案じて實さぞ侍る世の俚言にも脊に腹ハかへられずといふなれば堪へ難く悲しき事なくハ類なく嬉しく悦ばしき事にも遭過よし無るべしさりとて貰ふ人を尋ぬるに徒に日を送らむも便なきわざなれば此宿の主人に兎もかうも語ひて見侍らむハ如何といふに仙吉も諾ひしのバ明くるを待ちて斯と語るに主人ハ限りなく憫然と思もひておほかたにも聞過さず少こし問ひ試むと思ふかたの[illegible]きにしもあらねば我歸る迄ハ待れよかしとて軈て出ゆきぬと

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ばかり有りて歸り來つゝ告るやう此宿にては人も知る出村何某といふはいと富有にて足らぬ事なき人なれど只ひとつ闕たるは子のなきのみとて常に歎かるゝが此頃人の子を養ひたしと言れしとの聞傳へたればお兩人の上を詳細に語りて此娘を養ひとり賜はずやといひしに能くこそ心に懸て知らせつれ疾連れこよかしと言れぬるは思ひしよりも易げなればなど促すにお常は悦びてやをらお由の手を引きて運行ぬ土藏の大きなるに續きて淸らなる格子戸さてたる家のさまも實富有なる人の住居とは著く見えたり宿の主人先入りて言入るゝ程もなく此方へと誘はるゝに入りて見れば夫婦は出迎へて互に身の上の有樣など問ひもし語りもしな

から熟くお由を見て種々の手遊ものと菓子など出して慰むるさまいと懇ろなり兼て聞き知りもせられしならむが此子を養ひとるのらハ此家を譲る相續人とするとハ努々違ふべからぬをされバ眞實の子の後々生れぬともろは他家を繼がせまたハ別戸さするともあらむなど後々の證に書しるすべき件を語れば妻ハまた是より教へ立る道々の事など語り出てハ常の心ゆくやうにすれば此方ハなどか悦び思はざらむ只よからむ樣に如何も定め賜へかしといふも半ハ涙聲なり夫婦はさこそと思ひ遣りつゝ證書と黄金何程かを添へて出せバお常ハ證書のミを取りて黄金にハ手をだにふれず娘が身のよすが定れる悦びハ黄金得たるよも増して覺え侍るになどて斯る賜ものを受け侍るべきとて固く辭める心潔さよ夫婦はいよゝあはれさ倍りて強てハ言ず何れの里にも仕つのれなばとく報知たまへ折にふれてハれのづから力となりて計らふ事も亦有りぬべきをなど慰むるにお常ハあまたゝび禮を述べて扨お由に對ひ物言むとせしが涙さしぐみて遉に言ひも得ぬを夫婦ハ見つゝなかく此處にありてハ別れのあしかるべしと早くお由を別室に誘ひゆけば娘めしと[illegible]ど今更ふみ向と引留めむやうもなくて泣々歸りゆくにも我娘の慕ひてなく聲や聞ゆると耳傾けつゝ行くさまいとあはれなり（以下次號）

前號の此傳七行目いと深くハし末より三行目小川の端ハ橋同二行目念じかへりもし末の行思ひやるだもハにの誤植也

○樂羊子の妻

もろこしに樂羊子といへる人あり學問に志し厚けれども年ごろよき師にあはざりけりある時妻に物語るやう洛陽にハ才高く學びの道博くいみじき人多しと聞くおのれも彼處に行きて物學びしてむとて出ぬ一年ばかりして樂羊子歸り來りしのハ妻ハわわたゞしく夫を引きておのが機織る處に誘ひ入れて涙ながらに諫めけるハ此織物ハ如何なるものよりなり如何ある事より斯く織りなすものとハ見たまふぞ初め蠶繭より絲にひきて此機ものとする迄ハ幾その人の手を歷何程のいたつぎによりてか成れりとハ思ひはかりたまふらむ又一節の絲を累ねて寸に織りなし寸を累ねて尺とし尺を積て丈とし漸く物の用に供るとを得るにころ侍れ今此機を一段よ截り斷ば用をなさぬのみかハあたら年月をのさねし勞きも皆其甲斐なくなりぬべし我夫の一年學びて歸られしハ此機を斷つよおなじく如何美ハしく修し得たまひたりとも[illegible]く物の用に[illegible]を覺束なくなむといひしかば夫ハ痛く此諫めに耻て再び洛陽に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

のぼりて學問を勵み七年まで歸らざりしとかや孟母の機をたちて子を勵ましゝとハ誰も知れど樂羊子の妻の諫めしとハ多く記し傳へぬやうなり此事もし實ならば德孤ならずとかいへる古言にもかなひぬべくころ

◎雜記

○洋服裁方の原理

洋服はど人の身体に密着して適應はざれバ醜く且つ衣て心持のわるきものはあらざるべし記者市中を通行するに當り稀れによく身体に適應ひたるを着せる人を見て彼の人ころ外國に行きたる事のある人ならめパリ或ひは倫敦にて仕立さる洋服よやと思ふことあり跡にて人に聞き果してその考への當れる事も偶にはあることとなりまた日本服はど裁方の粗略なるものはあらざるべし仕立屋などにては多く着用する人の影をだに見ずして仕立揚るとなり蓋しろの强ちに身体に密着するを要せざるがもゑなふんとハ云ひながふろれすら仕立の上手なるものはたとひ身体に就て寸尺を量ふざるもろの人の容貌を一見し肩は流肩なるとかさし肩なるとか脊は如何腹は如何或は肥りたりとか瘦せたりとかを熟視して后ちに裁ち合すといへり（記者嘗て上手と聞えたる仕立職に聞きたることあり）況して洋服を裁つにハまづその原理を知りて裁方を習ふべき事なり今幸ひに英國のクヰーン新聞にエリオット夫人といへるがろの原理を書綴りて寄せたるを讀みて嗚呼何事にもろの學問あること哉と嘆一嘆して之を左に譯出し之を讀み給ふ姫君達の日本服を裁ち給ふよも或ハ益するところなしとすべからず日本の洋服仕立屋などハ手先にて裁合す事をこそ知れいまだかゝる原理を學び知りたるハいと稀なるべし左ればころ一見して和製と洋裁とを知るを得れ讀者乞ふ御出入の仕立屋よこの事を告げ知らせ給へろの職のものとて少しハ悟るとあろなくてやハあるべき記者などハ何事につきても理窟をば述べ立つれども實地の仕事にはすこし不得手の方なれば若し記者より告げていざ之を裁合ハして見すべしなどいそれたらんにハいと尻込すべき次弟なればこの一段ハ本誌愛讀の姫君達に擔任ねまゐらするになん扨て

裁縫學の原理に從ひ衣服の裁方　第一章

寸方を取るといふことは左までむつかしき事にあらず寸方を取ふんと欲するところの人体外面の一方より一方までの寸尺を取ることにて至て無造作なり男にもあれ女にもあれ正則の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寸尺をとり身体に密着する衣服を作らんとならば總丈けの寸尺と胸部の寸尺とを精密に取るの外別に熟練を要するほどのことはあらず何となれば胸部の寸尺を以て身体の他の部分の長さと幅とを推知し得らるゝが故なり今このところにて人体各部につき精細なる説明をなしまた小兒と大人との比例の寸尺等につきて述ぶることはいとむつかしき事なれば之を他日に讓りたゞ前にいふ比例の取り方を述べてかばかりの事につき多くの金錢を費さずに及ばざる由を明かさんと欲するなりまづ第一に人体各部の寸尺は各々の頭の寸尺と比例するものたるを承知し居るべきことなればこゝにはその事を説明せん扨て各國各人種によりての比例を取るに各々異るところあれどもイタリヤ獨逸および英國の有名なる彫像家は昔しの人の實驗上より定めたる如く頭の平方尺を以て全身の比較を取るの規則に從へりこの平方尺をまた四つに分つことにてまづ頭の頂きより顋まで或ひは頂より後項の第五脊骨までの平方尺を取りこれを眼窩の上方の縁にて二つに分つなり彫像家はこれを面部の寸尺と唱へみな此法に從ふて彫像せり扨てこの二分したるものをまた再び二分して鼻と前額との長さを知らるるなり斯く鼻の寸尺を取ることは古くより行はるゝ事にてこれを拇指法とも云へりされば鼻、拇指および足の大指との長さ手腕、脚腕の周回とまた耳の長さ等みな相同じく即ち各々頭の四分の一の寸尺なるが故なり此法は廣く行はるゝといへどもろの區分法あまり小なりと思はる（以下次號）

○英國演劇の批評（前號の續）

かゝる結果とて夫は妻の罪狀をのぞへたて遂に離縁なしたるは素より當然のことなれどもこの婦人は尙ほも自ら省みるところなく澁面を作りて口に不平を鳴らすとは驚き入りたる振舞なりかゝる行ひあるものを爭でか婦人らしきとの或は勇婦なりとの評をうることを得んのくて衣の身着のまゝにて巳が住み慣れたる家をば放逐せられ可愛き子にも再び逢ひ見ることの叶はざるに至りたるは皆これ自から取りたるの禍ひなり扨てこれに引續き一家族みな難義に迫りて夫はイタリヤの冒險者に欺かれその者の妹なる不良ぬ婦人と結婚し彼のコムテスドモレーの父母は再び娘の名を聞くも忌はしきとていたく嫌惡しまさこゝに最も憐れなるは子供なり母の放逐に逢ひたるときは家にあらざりしのば何事をも知らずして我が家に歸り來れば曾て見も知らぬ婦人の代りて母となり誠の母はいつしかに公罪の人とぞなりける世の哀しき憂きことの限りは巳が

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

身一つに集りたるかと歎きけるころ道理なれ作者もかゝる心なき不人情の行を蔽はんとて勤めたりと見えその跡明かに知られぬ又見物者も何とかして道理を牽強つけて面白く見物せんものをとて心を苦めたり總て婦人の務とすることの第一は夫に對すると子に對するとの二つなり夫に對しては常にその相談敵手となりてこれを助け子に對してはその責最も重くその子成長の榮辱は皆母の心に由ること多かるにこの二つの務を欠き全く必要ならざる死を自ら招きたるものを指してこれを節死なり義の爲めに死せしなどとはいふにこの婦人に贔負せんと勉むるもいひ能はざるところにしてセント、ゼームス劇場において演ずべきほどの價ひあしと評するの外なきなり心ある見物人の中に甚だ不評判なりしは尤も千万の事どもなりかゝる演劇を長々しく批評するも最はやその詮なきことながらそのゝちも見物人の踵を接するもケンダル夫婦（妻女は彼のコムテスドモレーに扮したり）及びヘヤ氏の技倆を以てこの奇怪なる事柄を演するを一たびも見まほしゝとの考へに出たるなるべしされば後までも好評を買はんとすることはいと覺束なきことにぞある然れども演劇の最終に當りてヘヤ氏の演說は辨舌爽かにして論旨聞くべきものなりし（畢）

◎ 對 譯

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀容易㊁就て（玆にては「に」と云ふ意）㊂考ふ㊃然ども㊄働け（二字にて）

（乙）㊀汝㊁羅馬（に）㊂於て㊃ある㊄時㊅彼等が㊆羅馬（に）㊇於て㊈爲す㊉如く⑪爲せ

（丙）㊀惡き㊁讀物（ハ）㊂速に㊃㊄學ばるゝ

MAXIMS & PROVERVS.
泰西の箴諺

（甲） Think of ease, but work on.
㊂ ㊁ ㊀ ㊃ ㊄

〔意譯〕容易に思ふて働くべし

（乙） When you are at Rome, do as they do at Rome.
㊄ ㊀ ㊃ ㊂ ㊁ ⑪ ㊉ ㊅ ㊈ ㊇ ㊆

〔意譯〕羅馬に在ては羅馬人の爲す如くせよ

（丙） An evil lesson is soon learned.
㊀ ㊁ ㊄ ㊂ ㊃

〔意譯〕良からぬ稽古は直に覺えらる

SĪZĀ

Kino made yo ni nikumaresi SĪZĀ mo, sisite wa taresimo kataki-uti wo nasan to iū mono nasi.—*Sekisupia.*

五百一

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻 第三回

春のや主人稿

さるほどに今年六月の初幹

(註)本篇中に今年また此月といふは第一回の年月をいふなり。明治十九年をいふにあらず。此物語の時代は今より餘程前の事としるべし

はるか遠き旅にたちいでし折。越野は色々の都合によりて伜を大坂より呼び上しぬ。思ふに父親の忌がはてなば以來は東京にて修行させむと内々心構したりしあるべし。光陰は梭をなげるやうにて七七日も已にけふとなりぬ。越野は唯ひとり住居をたちいで谷中の埋葬地に墓參の歸るさ。下谷の切通しで思ひがけなく甚だめづらしき舊知交にあひぬ。其人は誰人ぞといふに第一回にて口輕く喋舌りし瀧口某の細君にぞありける。件の瀧口と呼ばるゝ人はむかしは亡き夫の引立によりてやう〳〵官海に泛びし身なれどいまは以前に似ぬ立身して「月給六十圓取られます」とは寔に結構なる次第といふべし。元來同縣の人にてもあれば流石に疎々しき交際にしもあらず越野も愛想よく會釋をして已に前回にて知られたる如く。とある氷屋の店先きにやすらひ互ひに繰返す昔語。覺えず數十分を費やせしが越野はいろ〳〵に用事もあればとろの日は宿所などを告しらせて辛々お多辨の圍をのがれて一足おさきへたちあがれば「それでは妾も」ト店先より互に讓りあふてたちいづれば以前の小婢は何とかしけん。頻に何事歟尋ねたさうに二個の面をのみ打守りて「毎度ありがたう」をいふのも忘れて茫然突たちて見送りたり。越野は途中にて立わかれて軈て小石川の住居に歸りつゝ。「テモマアよくしやべる御新造。チヨッと途中であふたばかりで。それであの位に長いのだもの。ドッシリ落着て話された事なら此長ひ日でもたまりはせぬ。どうか尋ねて來て呉れねばいよが」ト内々苦勞にせしその甲斐もなう。およそ一月ばかり程經しころ。土用もやう〳〵にわけんとするころ例の瀧口が尋ねて來りぬ。「直にもお伺ひ申しますところ。いろ〳〵さまぐ〜と取紛れまして。かう申すと御無弊のやうでございますけれど今年は新佛の初盆でございますのに。旦那が温泉へ……胃病で身体を痛めまして俄かに子貴婦。……俄に伊香保の温泉へ……ハイ先達てでかけまして。それにあなた……あの何が……伜が窒扶斯まがひで……イ、エもう全快いたしましたが直ぐにまた妾が……何。あなた。例の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

持病で……ですもんですから。テンヤワンヤで。直ぐにも伺ひます筈でしたけれど……夫も伺はねば濟ないと申していろ〳〵……イエどういたしまして是非〳〵伺はねば濟ませんのですけれど。そんなこんなで取紛れまして」ト何をいふのやら口から出任せ。虚言をつかずともと思はるゝ所へ虚言で錬りわけた分疏三昧。かくて攜へ來し包を開きて大層らしく取出すは芝の青柳の上等「最中」。たじかに五拾錢の折なるべし。思ふに中元の到來物と見ゆれば。恐らく蓋をあけて試驗するに至らば。中は案外に干乾びてやわらん。さりとて信切は喜ぶべし「とんだ結構な頂戴物を」ト越野は氣の毒氣におしいたゞきて。茶菓子とりい

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

でゝすゝめなどす。瀧口は膝おしすゝめ。「今日からやつて伺ひましたも實は御無沙汰のお詫ばかりでなく。フト不思議な事うけたまはりましたゆゑ内々あなたまでトぞんじまして」トいひかけてあたり見返るにぞ。越野は覺えずも眉根をひろめて。「それはまたどのやうな「サア。よもやとはぞんじますが……どうやらお話をいたしますのも」トいひつゝ幾度も口ごもりて流石の多辨者がいひかねるは。何でも一通の事まではあらじ。倅の身の上の事ではなき歟」と問なく子を思ふは母親の常。もしやと胸に當る事がありては色々さまぐ〱の取越苦勞。たちまちムラ〱と輻湊し來りて。今はお多辨をも厭ふこと能はず。「ヱてマアその譯はどういふ譯で。全体どのやうな事柄で」トせぎ〱となたより水向してお多辨なされてト請求するとは。扨も人心は得手勝手なものなり。されど厭ふべきを厭はずしてジッと辛抱してお多辨を聽くも。蓋し子を思ふ親心ぞかし。子を思はぬ親はなけれど親を忘れ果る不孝者は多かり。親子の情愛は德義上の沙汰なり。自然の必要よりいでたる事なり。しかるを此道理をわきまへずして親の權義とか子の義務とか。妙に代言の假聲をつかふて頻に「孝」の字を邪广ものにして兎もすれば權利義務の境論。果は我家の奧の間をさへに。訟庭に出かねまじき澆季の世の中。まことに歎かはしき事どもなり。

瀧口の細君は聲音をひそめて。さすがに口隱りがちに語りいづるは果して如何樣なる事ぞやといふに。越野があらかじめ心配せしに違はず倅が身の上に關係せし事なり。その事の仔細左のごとし。

此日より二日三日ばかり前の日の事なり。瀧口の細君は少々池の端に所要ありて。日暮に切通しを通りたりしにたちまち思ひ寄らず後邊の方より「モシ〱奧さま」ト呼ぶものあり。何者にやと立どまれば急ぎ走り寄るは乙女子なり。徃る日氷屋にて見掛たりし地方者らしき娘なり「わたしに何か要があるのかへ「ヘイ少とばかりお尋ね申したい事がありまして」トいひかけてまづ吐息をつき。手拭とりいだして汗をも拭ふ。思ふに息せきとかけて來たと思し。

◎家政要報

◎僕婢の職掌　總て家僕婢女を召使ふには大に心得あることにて豫て規則を定め置き雇ひ入れたる時にこれをよくいひ附置くときはその後事々物々にいひ附るの面倒もなく且つ家

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

事の整頓甚だよきこととなるが我邦にてはかゝる規則あるひは僕婢の職掌に關したる書物等は更になけれども歐米にては各ろの職掌などを委しく書き記したる書物も少なからざれば家婦の便利となるのみならず僕婢もまた之を讀て奉公する道を知る事なり今英國の婦人新聞に僕婢の職掌と題する一篇を載たれば左に譯出して讀者の參考に供すべし固より彼國とは衣食住の有様大に異るを以て直ちに我が邦に行ふことは難けれども之を斟酌せば少しは我が家政向きの心得ともなる事ありまた傍ら彼の國の極りよき有様を知り追々には家政取締り向きの改良を計る一端ともなりぬべし即ち曰く

侍食者は皿、ガラス食器等の取置きをなしランプ、瓦斯等に關することもその出事なりまた酒類置場の取締りをも引受け毎日入用の飲料を小出し手覺帳を用意してろの出入を記載し主人は一週間に一度必ず其の帳面の檢査をなすべし全体侍食者たるものは酒類を瓶に詰めコルクと封蠟とを以て口をなし箱に詰る事の心得なかるべからずさて明き瓶の掃除はなすに及ばざれどもガラス器皿の類にて自ら食卓上に出し入れするものを掃除し食事の時はろの傍にありて給事をなし來客鐘を鳴らしたるときはろの取次をなしまた客室にて鐘を鳴らしたるときもろの小使をなすべし自ら引受けの戸棚を定先をきろの中のことには一切責任に當りまた來客多人數ありて手廻り兼ぬるときは走卒いでゝ手傳をなすこともありといへども万事ろの指圖をなし自ら一切の責任に當らざるべからずこれ侍食者の職掌の大略なり(以下次號)

○浴衣地　このごろ端ものの殊に夏向きの品は少し直上げの姿なるがろの中にも浴衣地は殆んど三割より三割五分餘までに引きあげ買入の多く品物不自由なりといふ

○魚類　目下暑氣甚だしくてさなくも魚類は敗れ易しとて買はざるものもあるに流行病の萌しもありて魚類を食せざるもの多きにも拘はらず近來引續き不漁なるが爲め魚市場の直段大に引上げれば魚の代りに鷄卵、鰻、鰌等を食するもの多しとて是迄大卵一個一錢二三厘のもの一錢七八厘より二錢二三厘となり鰌一升八九錢より十二錢までなりしを二十錢に引上け骨抜は三十錢位鰻は上一貫目一圓七八十錢中が七八十錢メソ三十五錢鯉は尺にて五十錢位の相場なりと

○白米小賣相場　一圓に付(七月九日より改正)一等米(舊上白)一斗一升八合二等米一斗二升六合三等(舊中白)一斗三升四合四等米(舊下白)一斗四升二合五等一斗五升五合

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○暦になりたまへ

ある處に學問にのミ深く心入れてうきたる事などハ毫かも聞えぬ壯者ありけり親戚朋友などせちに勸めて容貌美麗しき妻を迎へさせぬれど睦じく物もえいはず猶一室にかきこもりて書籍にのミ見入りたれば妻ハいと心憂きとに思ひて涙ながらにいふやう妾もし書籍ならば君も傍はなち賜はず手ならし賜ふべきに人とうまれしてろ甲斐なけれ來世ハ必ず書籍となりぬべし歴史にや身をかへむ法律書にやなり侍るべきと怨ずれば壯者ハ見のへりて其ハよくてろ思ひとり賜ひけれさらば暦になり賜へといふに妻ハいと訝しげに暦見賜ふとハつや〳〵なきになどて然ハのたまふむといへば暦ハ年々に新しくなるものならずやとぞ云ひける

○一昨日

大工の親方が弟子にむかひ汝得意場の檀那の前で昨日〳〵といふがアリヤア聞苦しいぜ以來ハ昨日といへと敎ふれば弟子が親方ハ町内の得意場より最些立派なとこへ出なさるが御役人の前なむぞでハ何と云ひなさるのですと問へハ親方ハ小首を傾け丁寧な語遣へにヤア夫々の次第があつて隨分むつかしいものサ役人の前ヂヤア一昨日といふハナ

○數學問題

米五石の價三十圓なり今三石の價は幾許なるや

○前號數學問題の答式

答　四十八分ノ十九

(乙)

$12^h-5^h45'15''$
$=6^h34'45''$

$$\frac{4^h25'15''}{2} \quad \frac{6^h34'45''}{2}$$

10 50 30　13 9 30

答
晝長十三時九分卅抄
夜十時五十分三十抄

(丙)

$$12\ \Big|\ \frac{7}{48}+\frac{3}{12}$$

4　1

$12\times4=48$

$48\div48\times7=7$
$48\div12\times3=12$

19

$$\frac{19}{48}$$

右答者ハ(乙)筒井まり岩見茂敏(丙)筒井まつ子岩見茂敏

○寄書

○婚姻弊害論(前號の續)　大嶋　盛造

若しろれ眞實なる兄弟姊妹にして相交るとあらバ則ち人必ずこれを禽獸視せん然れども從兄弟姊妹相ひ互ひ婚を結ぶとに於てハ則ち社會一般これを怪まず是れその一をしれどもその二を知らざるの見といふべけん亦人倫を紊るの點にれいて何ぞ異なふんや嘗て我日本れよび支那の舊史を閱るに上み帝王

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

侯伯の尊きに於ても從兄弟姉妹相ひ結婚せしもの歴々と記載し尤中以下の人民に於てハ固より以て通常のことせり陋俗の久しき續て今日にいたる實に慨歎に堪ゆべからざるなり見よ眞實の兄弟姉妹ハ其關係親密なる從なる者よりも稍優るところあるにもせよ從なるものもまた頗る親密の關係を有せり然るに世人これを忌むこと甚しくして彼れを忌むことなきハ何ぞや是吾輩の大に疑ふ所以なり同系結婚のことに於てハひとり日本および支那のみならず西洋諸國にも嘗て盛に行ハれしところなるが近來衞生學士の大に論ずるところとなり漸くその數を減ずるに至れりかのセノハ府の學士リルリート氏が同府内に於て同系結婚盛んに行ハるゝが故にあらたに出生する小兒多くハその身体および精神も壯健ならざるのみならず夭死するものゝ多きを痛歎せり蓋し同系結婚ハその關係新疎種々あれどもその最も親密なるものハ實の兄弟姉妹ハ姑らく舍きまづ從兄弟姉妹を以て第一となす而るに同系結婚者ハすべて男女關係の最も親密なるものなるがゆゑにその害をきたすもまたいよ〳〵酷烈なるものなり而してその害なるもとより許多にして一二に數へ易からず中につき最も緊要あるものを今こゝに擧げんに（第一）結婚するも懷姙すくなし（第二）幸にして懷姙するも概ね結婚後久しきにあり（第三）出産するところの小兒多くハ畸形あり（第四）生兒諸般の神經病にかゝりやすく殊に癲癇、衰弱、狂痲痺、耳聾および唖等のもの多し（第五）生兒また佝僂病、肺勞などを患ひ易し（第六）生兒大概疾病に堪ゆるの力に乏し（第七）生兒多くハ夭死す（第八）生兒成長の後多くハ萬事に堪忍するの力乏しくして常に人のために使役せらる（第九）生兒成長の後活潑のもの少なし以上の害たる生兒直に發するものありまた生兒に發することなければその子もしくハその孫に至て發するあり然るにこの害を發生するの理由に至てハいまだ歐米學士が論究したるの確説を得ずと雖どもその此のときに至るの實際ハ既に諸名家の經驗上に於て疑ふべきところなし茲にまた二三の實例を擧て同系結婚より發生し來るところの害果して虚にあらざることを證せん（以下次號）

〇寄問

〇色を白くする法　化學的の作用を假りて皮膚の色を白くする法ありと聞く果して之ありや　西村春子

〇乳房の療法　小兒の齒にて乳房に傷を受け痛み甚だし療法の敎を乞ふ　神奈川　吉田みつ子

〔記者答、醫者に乞ひ給へ可成ハ婦人科專門の醫者宜し〕

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

無類特別元價發賣廣告

貴女至寶 大全活用姫鏡

絹仕立和製美本 正價金貳圓廿錢

本書ハ有志加盟の諸君二千名を限り紙價實費金七十錢を以て●加盟諸君に頒つ●加盟期限ハ七月三十日限りとす●期限後ハ正價に復す●送金ハ凡て郵便小爲換にて送付をこふ●切手代用二割增●送本ハ七月十日より着金の順序に隨ひ遞送す●送本延滯の節ハ郵税先拂を以て督促あれ

●勉め勉めよ女子諸君○勵み勵めよ婦人諸子○讀めよ〳〵此書を○進み行く世の今はしも○貧富貴賤ハ只管に○學ぶと學ばざるにあり○今此書ハ御身等の○必ず讀べく學ぶべき○事を漏さず載せたれば○姫鏡てふ書の名に○背かぬ貴女の至寶なり○其體裁を尋ぬれば○平假名附て讀み易く○挿畫加へて解し易く○彫刻も今世よ流行ぬる○銅版あれハ文字も畫も○最と明かに鮮かに○便利の爲に製本も○懐中すべき小本形○固く仕立て紙も亦○舶來品の極上に○極々上のインキにて○上は錦に綾表紙○先其中の概略は○大別廿又餘件の○小分三百五十條●今其一二を陳へんには○袷に單衣綿入の○綿の入れ樣仕立方○羽織に袴シヤツに帶○半纏其他種々の○紋の附やら刺し晒し○凡七十余條あり●禮式の部ハ御身等の○起居擧動言葉づき○送迎受授に配給仕○燭臺火鉢莨盆○茶菓の置樣進め方○眞行草の區別迄○大凡四十又餘條●修身の部ハ親と子とゝ同胞親族夫婦又○友垣下男下女迄○互に守り盡すへき○家の營み治め方●和言の新と舊○優にやさしき言の葉の○用ひ方迄聊かも漏さず載せて詳らなり●和歌てふ部に敷嶋の○道の起りも書樣も○詠樣のみか古の○範となるへき歌もあり○濃茶薄茶の點方や○置手前喫樣も○細かに示し擧置ぬ●活花の部ハ順序より○花体も分て天地人○水揚枝の撓め樣○床の陰陽花配り○眞行草も說明し●熨斗に短冊筆に墨○重ねて扇雌雄の蝶○總ての物の包み樣○世に珍らしき折形も○集て卅余條あり○五行結の裏表○上卷吾妻相生の○松の緣の蝶結び○蜻蛉結びも取交へ●化粧の部にハ月の眉○花の顏せ色を增○光を添る白粉の○塗樣其他湯を使ひ○髪の結樣又眉の○作り方迄美婦人の○美に美を加ふ秘方あり●絃曲唱歌は琴よ三味○歌加留多なり貝はゞい○一彈八の氣を奪ひ○半曲鬼を泣しむる○千万無量の妙味あり●四季用文ハ新年の○花見月見に吉凶に○時候見舞の文の範○人倫自他の稱へ方○月の異名や文字盡し●又婚姻の大意より○結納輿入れ部屋見舞○四惡十惡相性や○忌詞をも擧尽し○妊娠中の身持方○產前產後の養生や○子供育の道標●家の基の臺所○ろを取締る規則より○衣服器の扱ひに○飲食物の扱ひや○雑費の出入扣へ方●料理の部ハ和と洋の○二ッを始め時に連れ○變る許多の献立も○四季の蔬菜の趣向あり●鐵氣や汚を除き去○萬の虫を驅盡し物の腐敗を止る法●萬の物の漬樣も●貯へ方の秘事奇術●染物の部ハ新工風○好の儘よ紺も緋も○綠紫手染法●妙藥の部は目前○痛を止め疵も亦○擦して急に救ふ法●最後に女子の紋所○當世風の雛形を○許多集めて揭げたる●世にも得難き書なれハ○母も娘も姉○亦○妹も妻も荷くも○女と生れ來し者ハ○皆諸共よ繙きて○讀めよ讀め〳〵此書を○小形なれ共此書は●賢母を造る學校ぞ○金のなる木ろ田ぞ畑ぞ○御身等の父ぞ母ぞ師ぞ○拔けよ拔け此の書を

發賣本部 大阪北區宗是町三十三番地 博聞堂支店

舍告

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同 拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同 二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同 三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同 四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ニて一割增し 郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 積文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野銻五郎

女學叢誌大賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂

同 神田區淡路町 巖々堂

同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂

大坂府備後町四丁目 岡嶋支店

千葉縣千葉本町一丁目 立與舍

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY